

朝鮮民主主義人民共和国の核実験に対する抗議声明

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は9月3日、6回目となる核実験を強行した。マスコミは、大陸間弾道ミサイル（ICBM）搭載用の水爆と報じた。JR東海労は、いかなる理由があろうとも、この核実験に断固抗議する。そして、直ちに核開発や大陸間弾道ミサイル開発の中止を強く要求する。

朝鮮中央テレビは「今回の実験は、ICBM弾頭部に搭載する水爆の製造のために新たに導入した技術の正確性と信頼性を実証するために行われた」「核武力完成の完結段階の目標に向け、非常に意義のある契機となる」と報じたが、この行為こそが国際社会の平和を脅かし、各国の軍事力強化の口実をつくり、軍拡競争の悪循環を引き起こしているのである。その一方で、北朝鮮の一般市民・労働者の生活の犠牲の上で、軍事開発がされていることは想像に難くない。北朝鮮指導者はこうした蛮行をまだまだ続けるのか。私たちは断じて許すわけにはいかない。

日本は1945年8月、ヒロシマ・ナガサキに原爆が投下され、多くの命が奪われた。そして、1954年3月、第五福竜丸が核実験の犠牲になった。さらに、福島第一原発事故。人類は核と共存できないことは常識中の常識である。

被爆国である私たちは、世界に先駆けて核兵器の廃絶と戦争の根絶を訴え続け、戦後72年にして念願であった核兵器禁止条約が7月に国連で採択された。この北朝鮮の核実験は、核兵器廃絶を求める国々・人々に対する暴挙でもある。

一方、アメリカ政府は、北朝鮮の核実験に対し、武力攻撃を辞さぬ構えを示した。安倍政権は北朝鮮からの危機を必要以上に煽り、再び国民に戦意を湧かせ、そして高めようと画策している。アメリカ政府や安倍政権の行為は、逆に国際的緊張感を高め、戦争を正当化しようとしているのである。

JR東海労は、平和な社会の実現に向け、北朝鮮の暴挙、あらゆる核開発・戦争政策とテロに反対し、憲法9条改悪を許さず、平和・人権・民主主義を守るために、多くの仲間と連帯し闘う。

2017年9月7日

JR東海労働組合